

J A M 政策 NEWS Special Issue

2005年9月10日 第S-12号

【発行】 J A M

【発行責任者】 大山勝也

【編集】 社会政策局

TEL 03-3451-2586

E-MAIL : syakai@jam-union.or.jp

これからの国会を展望する

2005年衆議院選挙【投票日は9月11日】にあたって皆で考えてみよう！（最終回）

衆議院選挙投票日が目前です。選挙が終われば、本格的に国会の審議が始まります。これからの私たちの暮らしを大きく左右する、いくつかの重要な課題について考えてみましょう。

第162通常国会で積み残した課題

郵政民営化関連法案の参議院否決による、衆議院の「やつあたり」解散で、いくつかの重要法案が廃案となりました。

その一つが政府提出の「労働安全衛生法改正案」です。この法案は、一部経営者団体の反対もあって、私たちの要求からみて不十分な内容でした。特に、最近職場内で増えている請負・派遣労働者など多様な就労形態の労働者に対応する安全衛生対策について問題があります。

政府案の安全衛生法改正ではダメ

連合は、請負労働者については、親企業による安全衛生協議会の設置や、作業場巡視、安全衛生管理指導などの実施を義務付けるよう求めてきました。しかし、政府の改正案では、「連絡調整など必要な措置を講じる」というあいまいなものにとどまっています。

政権交代で、職場の安全がきちんと確保される、新しい法案が必要です。また、社会問題化しているアスベスト対策も、時効切れの被害者もさかのぼって救済されるような対応が必要。

また、民主党提出の「パート労働者均等待遇推

進法」も廃案になりました。次期国会では、ぜひとも成立してもらいたい法案です。

どうなる医療制度改革

JAMの来年1月からの通常国会に向けた重点課題は、次の3点です。

- ① 税制改革
- ② 医療制度改革
- ③ 男女雇用機会均等法改正

とりわけ、私たちの暮らしに深刻な影響を与えるのは「医療制度改革」です。

さかのぼると、1997年、医療保険の自己負担割合が1割から2割へ引き上げられました。この時厚生大臣だった小泉さんは、2000年までに医療制度を抜本改革すると約束。その後、関係審議会で改革議論が行われましたが、自民党の医療関係議員の反対で、結局改革は先送り。こんどは、2002年までに抜本改革すると約束したのです。

約束を破る政府はもういない

ところが、2002年7月、抜本改革は2006年に先送りし、与党の強行採決で自己負担を3割に引き上げ、またしても約束破りの負担増。この時の首相は小泉さん。厚生大臣時代と首相時代に2回も約束を破っています。こんな政府が2006年に本当に抜本改革できるのか？日本医師会は、自民党最大の支持基盤。郵政族議員を切り捨てても医療族議員は切れない。私たちには郵政より医療が大事。こんな政府にはもうNOを突きつけましょう！

9月11日は投票日---家族そろって必ず投票に行きましょう。